

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 せたな町内の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

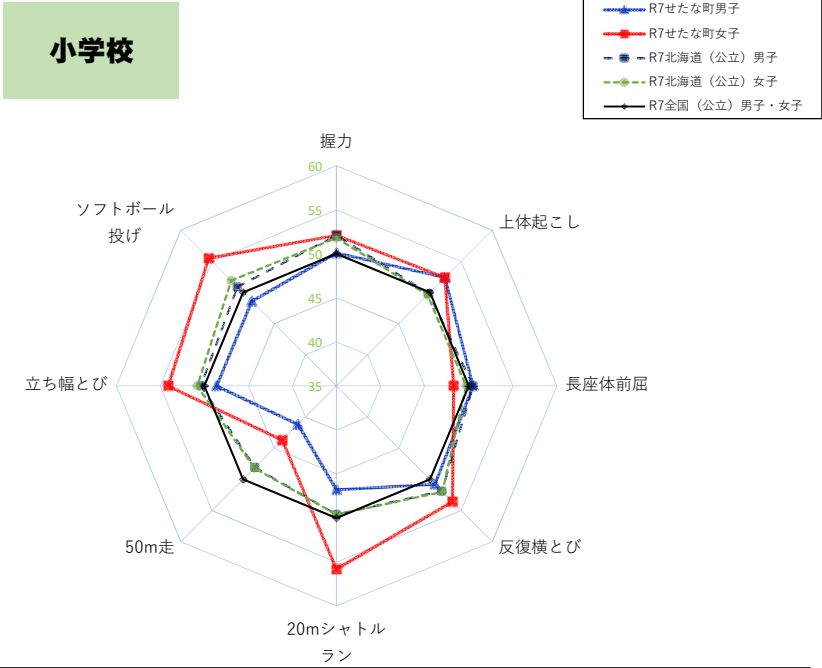
学校数:小学校3校・児童数27名、中学校3校・生徒数35名

○ 実技に関する調査の状況  
・各種目の記録及び体力合計点

小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7せたな町男子	50.1	52.4	50.5	50.8	46.8	41.2	48.6	48.6	47.9
R8せたな町女子	52.1	52.4	48.3	53.6	55.8	43.7	54.1	55.5	52.1
R7北海道(公立)男子	52.1	49.8	50.5	51.9	49.6	48.1	50.4	50.9	50.6
R7北海道(公立)女子	51.8	49.6	50.6	52.0	49.6	48.2	50.8	51.9	50.7
R7全国(公立)女子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
R7全国(公立)女子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

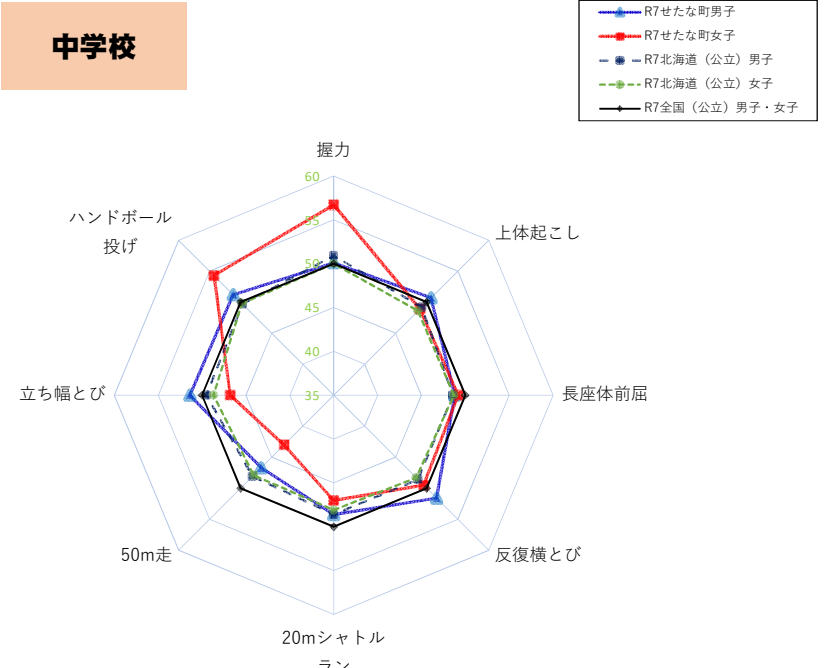
中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7せたな町男子	50.1	50.7	48.8	51.6	48.6	46.7	51.4	51.2	50.1
R7せたな町女子	56.7	48.9	49.2	49.5	47.0	43.0	46.8	54.3	49.9
R7北海道(公立)男子	50.9	49.2	48.6	48.6	48.6	48.1	49.5	49.7	49.0
R7北海道(公立)女子	50.0	48.6	48.7	48.3	48.1	47.9	48.7	49.8	48.3
R7全国(公立)男子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
R7全国(公立)女子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

・各種目の全国平均値を50とした場合(T得点)の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表示



男子の体力合計点であるが、今年度は全国平均を下回ることとなった。これまで全国平均以上であったシャトルラン・走り幅跳び・ボール投げがふるわなかったことが要因と考えられる。経年比較の中で、50m走は低い傾向にあるが、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳びは平均以上の傾向がある。

女子の体力合計点は10年間にわたり全国平均以上となっている。経年比較の中で、長座体前屈・50m走以外の6種目は常に全国平均以上である。とりわけシャトルランとボール投げ手については高い数値を示している。



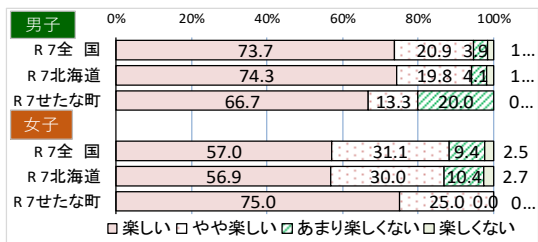
男子・女子とも体力合計点はほぼ全国平均並(男子はやや高く、女子はやや低い)となった。また、両者が共通して握力・ボール投げが全国平均以上、長座対前屈・持久走・50m走が全国平均以下であることが数年来の傾向である。今回の男子の立ち幅跳びは全国平均以上となっている。

○ 質問調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

小学校

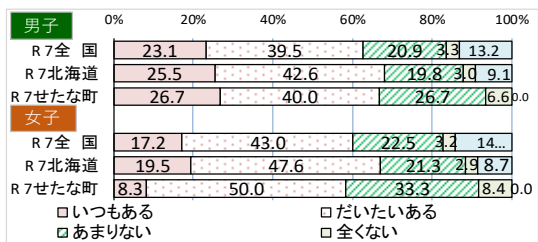
【児童質問調査】

・体育の授業は楽しいですか



【児童質問調査】

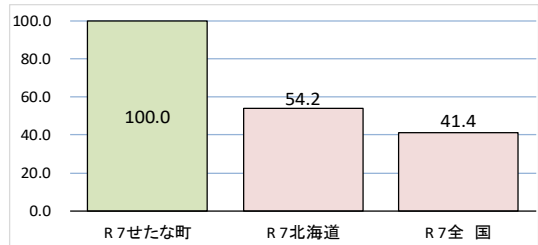
・体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【学校質問調査】

小学校

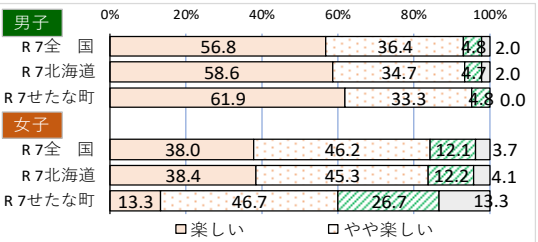
・体育授業において2週に1度ICTを活用している。



中学校

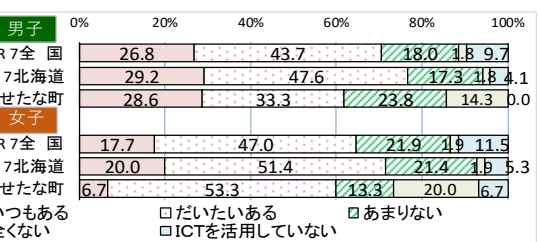
【生徒質問調査】

・保健体育の授業は楽しいですか



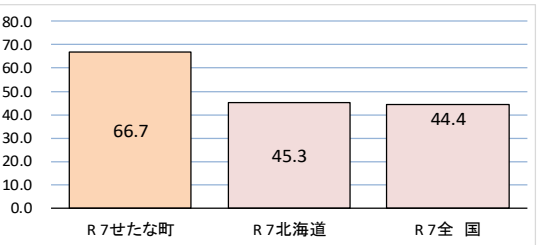
【生徒質問調査】

・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



中学校

・保健体育授業において2週に1度ICTを活用している。



■ 調査結果の分析

小学校

【成果】

女子の「授業が楽しい」を感じている割合が高いこと、肥満も9.3%と全国平均よりも少ないことが数年来体力合計点が全国平均を上回っていることの要因と考えられる。

【課題】

男子については「授業が楽しい・あまり楽しくない」と感じている児童があまり多くないが、ICTの活用により「できたり・わかったり」することがあるという肯定的に回答している割合が高い。また、授業でICTを活用している回数も一定程度あることから、ICTを活用しながらの授業の工夫・改善が求められる。

中学校

【成果】

男子については「授業が楽しい」と感じている生徒が比較的多い。そのことが意欲を喚起し、授業の工夫・改善と相まって体力総合点を全国平均以上としている。

【課題】

ICTの活用頻度も少ないわけではない。またICTの活用により「できる・わかる」と感じている生徒も一定程度いるため、ICT活用を含めた一層の授業の工夫・改善により女子もまた「楽しい」と感じる授業づくりが求められる。

■ せたな町の体力向上に向けた改善方策

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を踏まえた各校の「体力向上プラン」の改善、及び体育・保健体育授業の改善・充実にかかる啓発
- ・授業におけるICT活用を意識し、デジタル学習基盤を活用した「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進
- ・これまでの「長座体前屈」（柔軟性）が低い傾向であることの対応策として、体育の授業の冒頭での準備運動（柔軟体操）の充実
- ・社会教育におけるスポーツ少年団と連携した実技教室の開催（運動に親しむ生活づくり）・家庭と連携した運動習慣や生活習慣の確立に向けた取組方策の充実